

平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	農林業・食品産業関係についての地域ニーズと信州大学シーズの把握・整理とマッチングによる共同研究の推進
事業主体 (連絡先)	伊那谷アグリイノベーション推進機構 事務局 (長野県上伊那郡南箕輪村 8304 信州大学農学部内 電話 0265-77-1523)
事業区分	産業振興、雇用拡大に関する事業 (農業の振興と農山村づくり、森林作りと林業の振興)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,258,511 円 (うち支援金: 380,000 円)

事業内容

- シンポジウム及び体験講座の開催
 - 第7回シンポジウム 平成26年7月22日(火) 中川文化センター 参加者131名
メインテーマ: 食料・エネルギー・水の自給率 ー現状と課題ー
 - 第8回シンポジウム 平成26年12月2日(火) 伊那市役所 参加者135名
メインテーマ: 中山間地域の景観と観光
 - 体験講座 平成26年10月24日(金) イナッセ 参加者72名
テーマ: シカ肉・アマランサスを美味しく活用
 - 「家庭でのシカ肉・アマランサスの活用法」
 - 料理教室



【シンポジウムの様子】

【目標・ねらい】

- ① シーズや情報を地域と共有
- ② 地域資源の調査

2 農林産物資源の特性調査
駒ヶ根市において在来作物を主とした農産物、古くから食されている伝統料理についての現地調査を駒ヶ根市で実施した。また、伊那市においては高遠地域の在来トウガラシ品種である‘てんとうまぶり’について、栽培調査を行いその栽培特性、辛味成分含量をはじめとした果実特性などを評価した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- シンポジウム及び体験講座の開催
参加者は合計338名に達し計画300名を上回り、大学のもつシーズや情報を地域と共有できた。
- 農林水産物資源の特性調査
駒ヶ根市での農林産物調査の結果、果樹、野菜などの在来作物が数品種栽培されていることが明らかになり、さらに、伝統料理においても、他地域ではみられないような、いくつかのケースがみられ、今後の地域特産化が期待できました。また、これらの農業文化、食文化は地域の他の産業との関わり合いの中で醸成されてきたことも明らかになりました。また、伊那市の在来トウガラシ品種についても栽培諸特性や辛味成分含量等の果実特性が明らかになり、今後の栽培や加工に向けた基礎的な知見が得られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も大学の持つシーズや情報を地域と共有していく活動を継続して行う。その為、平成27年度に於いても同様のシンポジウムや体験講座を企画していく。

※自己評価 【 A 】

【理由】

- ① 参加者数は目標を上回った
- ② 調査により新しい資源の可能性を提案できた

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある